

キラリ

酒田市農業委員会報 No.50

おかげさまで創刊50号



「すくすくまっすぐ育つように」 ～端午の節句 笹巻き～

特集

こんなことしています 農業委員会 (2、3面)

～平成30年度酒田市農業委員会活動重点目標～

農地中間管理事業 (4面)

農業委員会活動レポート (5面)

キラリな女性 かがやく女性農業者 (6面)

若手農業者リレーエッセー かぜ

農業一筋 短信 (7面)

進む農業の法人化 -地域での取り組み- (8面)



30年 春季号

推進します!!

特集

こんなことしています

農業委員会

酒田市農業委員会は農業者の代表である農業委員29名で構成されています。毎月の定例総会で農地の売買、貸し借り、転用の許可を決定するほか、遊休農地調査などの農地に関する業務、また農業者年金等に関する業務を行っています。先般の法律改正により、農業委員会の重点業務として、農地等の利用の最適化の推進（以下「最適化の推進」）が明確化されました。

酒田市農業委員会では、昨年12月の改選を機に、最適化の推進をより進めるため、次のような活動をしています。

農地等の利用の最適化とは

- 担い手への農地利用の集積・集約化
- 遊休農地の発生防止・解消
- 新規参入の促進

これらによる、農地等の利用の効率化及び高度化の促進を行うことをいいます。

酒田市農業委員会では、昨年12月から「農地等の利用の最適化の推進に関する委員会」（以下「最適化委員会」）を設置し、以下のとおり最適化の推進に取り組んでいます。また、活動の重点目標を定め（次頁参照）、最適化の推進を含めた地域農業の振興を図ります。



最適化委員会

ブロック会議

酒田市を7つのブロックに分け、農業委員が3〜7人編成で毎月1回、ブロック会議を行います。

○地域の課題確認と解消に向けた活動

○農地の出し手と受け手の調整活動

○農地パトロール

○遊休農地の相談、解消

○人・農地プラン検討会への関与など



▲ 地域の課題を共有

市役所の農業委員会窓口だけでなく、地域段階で支所や各ブロック会議の単位で農地に関する

る相談などをきめ細かく聞いています。

最適化委員会全体会

ブロック会議や現場での活動などをもとに、月に1回開催される全体会で、農業委員全員で情報の共有を図るとともに、委員全体の最適化の推進に係る知見を深め、対応方法などを協議しています。

○最適化に関する研修・意見交換

○ブロック会議からの課題や成果に対する意見交換

○農地パトロール結団式・報告会

○現場活動の実践の報告 など



▲ 市内全域の情報を共有

農地利用の最適化を



農地パトロール

農業委員会では、優良農地の確保と有効利用に向け、遊休農地の発生防止と解消および、意欲ある多様な農業者への農地集積を図るため、利用状況調査を行っています。また、7月～8月を強化月間に設定し、遊休農地や違反転用の早期発見・是正に取り組んでいます。

そのほか、耕作放棄地を引き受けて農地を再生する農業者等への支援制度も行っています。詳しくは次頁をご覧ください。

女性の活躍

現在、女性農業委員は4名います。既に直売、交流、6次産業化などで女性の力が発揮されていますが、女性ならではの視点、ネットワーク、行動力などで、今後の最適化の推進に向け、活躍が期待されます。

3月8日、第14回女性の農業委員会活動推進シンポジウムが東京で開催され、全国から関係者約500人が参加しました。

京都府立大学講師の中村貴子氏の「女性が輝くために！今求められている役割とは」と題した講演に続き、「女性の視点を活かして農地利用の最適化に取り組もう」をテーマにパネルディスカッションが行われました。

農地、地域を守って行く為には女性の活躍が特に必要であり、新しい事、新しい環境を受け入れる事が大切等の話を聞きました。熱気に包まれた会場のあちこちで、皆さんからのパワーをいただき、帰ってきました。

(白畑ちか子委員)

平成30年度酒田市農業委員会活動重点目標を定めました

農業委員会等に関する法律の改正を踏まえ、最適化の推進について、より一層取り組んでいくとともに、従来からの取り組みである農業委員会活動の見える化や農業者年金の加入促進など具体的な活動等を通して、地域農業の振興に努めていきます。

平成30年度酒田市農業委員会活動 重点目標

- 酒田市農地集積センターを活用した担い手への農地集積・集約化の促進
 - 農地中間管理事業を活用した面的集積に重点を置いた農地集約化の促進
 - 「人・農地プラン」の話し合い、計画の見直し等への積極的関与
- 遊休農地の発生防止・解消
 - 農地利用状況調査員との連携強化（農地パトロール、農地利用意向調査）
 - 農地の多面的機能維持等に係る地区保全会等との連携・調整
- 新規参入の促進
 - 営農希望に適した農地のあっせん活動
 - 関係機関等との連携、相談調整
- 農地等の利用の最適化の推進に関する意見書の提出
 - 農業者等の声を反映させた意見書の提出
 - 酒田市農地集積センター地区会議での最適化の推進に関する座談会の開催
- 農業者年金の加入促進
 - 取組み重点地区の設定
 - 加入推進対策会議及び研修会の実施
- 農業者が必要とする情報の提供
 - 農業委員会報「きらり」の発行やホームページ等による情報発信
 - 全国農業新聞の購読拡大を進め、農業経営に役立つ情報の提供

『耕作放棄地を活用し地域を元気に!!』

耕作放棄地再生利用緊急対策交付金を活用してください

荒廃した耕作放棄地を引き受けて農地を再生する農業者、農業者等が組織する団体などが行う再生作業や土づくり、作付、加工・販売の試行、必要な施設の整備等の取組を総合的に支援します。

1 支援内容

作業	支援内容	摘要
(1) 再生作業（障害物除去等および土づくり）を一体的に支援		
①定額支援	5万円/10㍍ ²	中心経営体に集約化する場合
②定率支援	総事業費の1/2以内	重機を用いて行う場合
(2) 土壌改良	2.5万円/10㍍ ²	障害物除去等がなされた農地における土壌改良
(3) 営農定着	2.5万円/10㍍ ²	再生農地への作物作付
(4) 施設等補完整備	1/2以内	農道、農業用機械・施設等の整備
(5) 実証ほ場の設置・運営、試験販売等	定額	

2 要件

- (1) 農地の賃貸借等契約により、土地所有者に代わり再生作業を行い、5年間以上耕作することが見込まれること。
- (2) 再生作業を行うに当たって、再生費用が10万円/10㍍²以上必要とする耕作放棄地であること。
- (3) 荒廃農地調査で「A分類」と判定され、かつ農振農用地区域内の農地であること。

3 取組例

- ① 1年目 **再生作業** + **土壌改良** → **作物作付**
 ② 1年目 **再生作業**
 2年目 **土壌改良** → **作物作付**

○お問い合わせ

酒田市地域耕作放棄地対策協議会
 (農業委員会事務局内) TEL.26-5767

農地の集積・集約に

農地中間管理事業を

活用しよう

今年度の農地中間管理事業を次のとおり実施します。

申込期間

◆受け手◆

1回目/平成30年7月20日(金)まで
 2回目/平成30年11月20日(火)まで
 ※すでに登録済みの方は継続されますので、再申し込みは不要です。

※今年度より市全域を対象とした募集に変わります。希望の区域がある場合は別途申し出ができます。

◆出し手◆

申し込みは随時可能ですが、平成31年から貸し付けしたい場合は次のとおりです。

1回目/平成30年7月20日(金)まで
 2回目/平成30年11月20日(火)まで

※1回目の申し込み分は、平成30年度の協力金対象となり、

2回目の申し込み分が平成31年度の協力金対象(未定)となります。

※不成立農地を農地中間管理事業以外で貸し付けする場合は、

取下げ書の提出が必要です。

※本事業は、白紙委任となり、貸し付けする相手方を選ぶことはできません。

申込方法

出し手、受け手ともに、庄内みどり農協各営農課、酒田市袖浦農協、農業委員会事務局へお申し込みください。

各種変更届

すでに契約されたものの各種変更手続きは次のとおりです。

○名義人変更・住所変更

その都度手続きしてください。

○振込口座変更・借貸変更

毎年7月まで手続きしてください。

※いずれも、庄内みどり農協各

営農課、酒田市袖浦農協、農業委員会事務局での手続きになります。

活動レポート

全国農業担い手サミット プレイベント

1月31日、今年秋に山形県で開催される第21回全国農業担い手サミットのプレイベントが山形市で開催されました。

この日は、県内の認定農業者や関係者約220人が参加し、大会テーマの発表や、県外の若手農業者の事例発表、パネルトークが行われ、秋に控えた大会に向け機運を盛り上げました。



農業委員特別研修会

3月6日、農業委員特別研修会が河北町の「サハト紅花」で開催されました。この日は県内の農業委員、農地利用最適化推進委員が一堂に会し、中山間地域における農地利用最適化の課題と対応についての講演ならびに中山間地域における集落営農と法人経営について、「和農日向株」（酒田市）の代表から事例報告がありました。

人口減少や増える耕作放棄地は、中山間地域にとって大きな課題であり、示唆に富んだ大変参考になる内容でした。（佐藤良平委員）



担い手サミットは、平成10年に酒田市で第1回が開催され、今回が20年ぶり2回目の山形県での開催です。いい準備をして全国から農業者をお迎えしたいものです。

酒田市議会建設経済常任委員との意見交換会

2月7日、「米の平成30年問題に想う」をテーマに意見交換会を開催しました。

水稲とニンニク栽培を営む土田治夫委員が、自らの体験を踏まえ、米の販路拡大について発表。交流事業にも積極的に関わり、人との出会いが販路の拡大にもつながったことや、今後の米価下落や飼料用米への不安があるが、原点到り帰って良いものを安定的に生産することが今後につながるなどの発表を行い、意見交換を行いました。

そのほか新規就農についても話



農業者年金受給者説明会

2月21日、農業者年金受給者説明会が希望ホール小ホールで開催されました。

当日は（一社）山形県農業会議の農業者年金担当者を講師に迎え、農業者年金の制度や受給資格、受給に向けての手続きのほか、受給開始後の留意点などについて説明。当日出席した約30人の経営移譲年金等の受給予定者の皆さんは、熱心に耳を傾けていました。

（莊司研治委員）

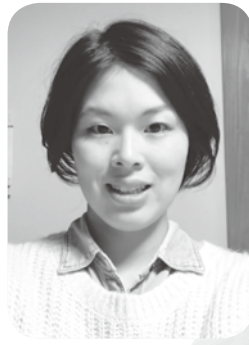
題となり、自己資金力と販路に工夫が必要との意見が出るなど、終始活発に酒田農業の今後について語り合いました。（佐藤耕造委員）



キラリな女性

…かがやく
女性農業者

家族に感謝



広岡新田
阿部 怜 南

我が家は家族3世代でメロンを主体に農業をしています。就農した頃は何もわからず、右往左往していました。5年経った今は、一人でできることも増えてきて、毎日が充実しています。

現在はメロンを生育中で、先日定植作業をしました。毎年作業内容を確認しないと不安でしたが、今年はスムーズにできたと思います。また、畑作りや種まきなどの仕事内容も根気よく家族が教えてくれたおかげで、少しずつわかるようになり、仕事をしていて楽しいと思う余裕がでてきました。

また、たまに家族に子どもを預



メロンの定植作業

かってもらって、友達と会ったり、旦那さんと映画に行ったりしているのですが、これらの気分転換は仕事への大きな原動力になっています。仕事が変わらなくても、難しくても、楽しみな目標があれば、頑張ろうと思えるので、今の環境を作ってくれた家族には感謝してもしきれません。

いつか旦那さんと私が主になって農家をするときがきますが、今度は私が、家族が安心して生活できる環境を作っていくのが今の目標です。家族がいるから頑張れる、感謝の気持ちを忘れない、この二つを心掛けて、農家として、さらにレベルアップしていきたいと思っています。



～若手農業者リレーエッセー～

私が専門学校を卒業して実家の農業を継いでから今年で13年目になります。今回、若手農業者のエッセー執筆の依頼を受けて、一般の会社で13年も勤めれば若手とはいえないと思いますが、自分の父親のような方々と語ることは、まだ若手なのだと思います。今回筆を執ってみました。

我が家は、代々稲作を主体とした経営をしており、私の父は兼業農家でしたが、仕事が忙しくなり、私が就農してすぐに農作業の大半を受け持つことになりました。

始めてみると経験のないことばかりで、すぐに大変な仕事なのだと痛感しました。その時は

初心に帰って

平田 小松原 佑介

地域の先輩方との交流で貴重な経験談を聞くことができ、自分の作業にも役立てられたのがとてもありがたかったです。

振り返ってみても満足したと納得できる年はなく、農業という仕事が一歩として同じ年が無い、自然を相手にしたバクチのようなものだからだと再認識しました。同じ1年が無くとも、雪が解ければ春も夏も毎年同じように作業を繰り返すのは、手間暇を掛け苦労しただけ増す、収穫の喜びがあるからだと思いません。

私にとっての一番の収穫は、農業に対する自分自身の感情の変化です。元々、好きで農業をしているという事ではなく、家の仕事だからと割り切った感覚でしたが、一つ一つの苦難を乗り越えた事でやり甲斐を感じられることが増えました。

これからの初心を忘れずに、若手農業者として少しずつでも成長していけたらと思います。

農業委員がおじゃましてお聞きしました!



中平田地区

佐藤 良一
光子 一ご夫妻



水稲約5畝と果樹、それに養蜂に取り組んでいる良一さん(76歳)と光子さん(73歳)ご夫妻。先代の頃から果樹と養蜂をしており、「周りでやっている人はいなかった」と振り返ります。

果樹に関心のあった良一さんの父が始め、受粉に蜜蜂を使っていたことからハチミツの出荷もしていたそう。「今は健康志向、自然志向なのか引き合いが多くなりました。直売所や、直販でも出しています」とのこと。高校卒業後、農業を手伝いながら、市内の間屋にアルバイトに行っていたという良一さん。そこで流通や経営に触れ、今後

の農業の活性化の一つになると感じ、それを機に地元で商店を始め、ゆくゆくは直売所の「みどりの里山居館」の初代組合長を務めることになりました。

そんな良一さんを支える光子さんは、以前病気を患いましたが、今では元気に回復し直売所に出す笹巻き作りを頑張っているそう。「家のことや笹巻き作りがリハビリになっている」と、笑顔で話されます。

「これからの農業は規模拡大だけでない、多角化というものもあると思います。自分も健康のためまだまだ頑張っていくたい」と良一さん。これからも二人とも元気で活躍してください。(齋藤均委員)



短 信

6月は現況届の提出月です

農業者年金を引き続き受給するためには「農業者年金受給権者現況届」を毎年提出しなければなりません。現況届の用紙は5月下旬に農業者年金基金から直接受給者の方へ送付されます。受け付けは6月1日からですので、忘れずに農業委員会事務局または各総合支所へ提出してください。

なお、農業者老齢年金のみ受給の方は、郵送での提出もできます。

農地パトロールを行います

7月上旬〜8月下旬まで、農地パトロールを行います。調査内容は、①遊休農地の把握 ②違反転用の把握 ③一時転用(山砂採取) 許可農地の現地確認 ④転用許可農地の確認(完了報告書の提出がないものなどの現地確認)です。

地域の優良な農地を守り、大切な資源を次世代に引き継ぐため、農地の適切な管理に、みなさんのご理解とご協力をお願いします。

農業者年金に加入しましょう

老後の生活をしっかりサポートします。農業に従事する方なら、広く加入いただけます。

*** 農業者年金のメリット ***

- ① 少子・高齢化時代に強い積み立て方式
- ② 保険料の額は自由に決められます
- ③ 終身年金で80歳までの保証付き
- ④ 保険料は全額社会保険料控除
- ⑤ 保険料に国庫補助も(要件があります)

農業委員会事務局の新体制

事務局長	藤井 昌道
事務局次長	佐藤まゆみ
農地主査	遠田 博
農地主査兼農地係長	阿彦 智子
農地係調整主任	齋藤 エミ
農地係調整主任	須田 知明
農地係主事	本間 瑛帆
八幡総合支所専門員	石塚 裕
松山総合支所調整主任	門脇 正博
平田総合支所主査	五十嵐則子

有限会社『ごんべの会』 ～ 広野地区 ～

代表取締役 加藤 清志

○名前の由来を教えてください
 転作田を受託し、大豆栽培に特化した生産を行っています。田んぼに大豆の種子を多く播く事から、「ごんべが種まきや、カラスがほじくる」の言葉から着想を得、自分達の作業内容にはピッタリだと思い、「ごんべの会」としました。

○経営の内容は

社員3名（役員3名）

従業員1名

経営面積80畝（作業受託含む）

主な農産物 大豆栽培に特化



○設立のきっかけは何ですか

平成10年頃、浜中地区の生産組合から、転作作業の手伝いと受託を打診されました。当時は年間を通した、機械作業一貫体制ではなかったのですが、集落内4人の仲間と、「地域の農地を、荒らす事なく活用し、所得の拡大を目指す」との強い思いと絆を持ち、平成17年に有限会社を設立しました。

○これからの抱負を

経営の効率化を図り、出来れば他産業並みの給料を社員に支払う事ができるように努めていきたいと思います。

今後は若い世代の入社も予定しています。これからもチームワークを良くし、作業中のケガなど発生しないように、労務管理にも気をつけながら、「地域に根ざした」会社運営を行って行きたいと考えています。



「はん」の花？

ヒント

- ◇バラ科サクラ属の落葉高木で原産はアジア西南部
- ◇3月～4月にかけて花を咲かせ7月～8月に実が成熟
- ◇果実から果肉と種子の殻を取り除いた部分を炒って、もしくは揚げて食べる



編集後記

畑が耕起され、冬の土から春の土に変わると、尻尾が長く白い頬のおしゃべりな鳥がチョコチョコ歩き回ります。

3月に「女性の農業委員シンポジウム」に参加してきました。そこで、女性農業者が少なくなっていくことと反比例して、耕作放棄地が増えていく統計数値が示され、驚きながらもなぜか納得してきました。

薫風が、真つすぐに植えられた苗を揺らしている田んぼに、女性の姿は見られなくなりました。田んぼに出るときは「んめ米なるよう、んめ格好して行け」と祖父に言われ、可愛い小さな花を刺繍した「はんこたんな」をして、田んぼに出かけた頃を思い出します。

「きらり」も発行から今回で50号。農村の風景も少しずつ変わってきました。これから100号までにはどんな風が変わっていくのでしょうか。鳥海山の「種まき爺さん」は、ずっと変わらず種をまいています。（ともこ）

答え・アーモンド